

令和4年3月1日（火）



祖父母学級の皆様から「スキー奨励賞」として、豪華な文房具品を頂きました。ありがとうございました。

本来であれば、3回目のスキー教室を経て、2月4日（金）のスキーフェスタでポールを設置したコースを滑る子どもたちのアルペンスキーの成果を発表する予定でした。また、残り5回の放課後練習を経て、2月13日（日）の町小学校スキー大会で、1周900mのコースを周回し他校と競い合う子どもたちのクロスカントリースキーの成果を発表する予定でした。新型コロナウイルス感染症の第6波により、発表の機会を奪われてしまった子どもたちですが、雪深く長い飯豊の冬を楽しむ智恵として、これまでスキーに親しんできました。

今日はその成果を発揮すべく、2年生から6年生の全校生で八幡山桜の森（はなのもり）に行ってきました。おかげさまで、美しい景色を背景に、誰も踏んでいない雪面を自由気ままにトレッキングするという、クロスカントリースキーの醍醐味を味わうことができました。

令和4年3月4日（金）



本日の3校時に、2～5年生の15名が6名の6年生を招待して、6年生を送る会を開きました。

新型コロナの影響により、さわやか委員会主催の縦割り班対抗ソフトバレーボール大会が中止となり、全校生で遊ぶ機会がほとんど無くなってしまっていました。久しぶりに体育館いっぱい全校生の笑顔が広がり、教職員も含めて幸せな一時を過ごすことができました。

縦割り班でのゲームの後、在校生一人一人が感謝の言葉を添えて、6年生に色紙をプレゼントしました。6年生一人一人からは、

「私は、他の友達のことでも意外と知らなかったこともあったので、○×ゲームをして楽しかったです。これからも仲良くして、明るい手ノ子小にしていてください。」

「私は、初めて色紙をプレゼントしてもらって、こんなにうれしいんだなと思いました。来年度は、みんなの行動力や団結力を生かしてがんばってください。」

「6年生を送る会を、みんなが一つになって企画している姿を見て、少ない人数でも一つになって協力すれば、何でもできるんだなと思いました。来年度もがんばってください。」

といった励ましのメッセージが在校生に贈られました。

新年度の0学期として、5年生以下の15名で「6年生が笑顔で卒業できるように、みんなで協力して楽しい会にしよう」というめあてのもと、ゲームやプレゼントの内容を話し合い、飾りつけも含めて準備を進め、一つの大きな行事を成し遂げることができました。

「成すことによって学ぶ」この経験が、来年度新たな取組となるクラブ活動や児童会活動に生きてくることを期待しています。

令和4年3月8日（火）



本日、おらんだラジオの「おらんだ専科情報紹介：卒業生の声2022」の取材がありました。6年生の代表2名と担任にとっては、9月24日（金）の東京外国語大学とのオンライン交流学習以来2度目の取材です。しかし、今回は、新型コロナウイルスの感染状況により直接の取材ではなく、Web会議システムを使った遠隔での収録となりました。

前回と同じパーソナリティーの方でしたので、子どもたちも安心してインタビューを受けていました。

はじめに、パーソナリティーの方から、「手ノ子小学校は、アルミ缶回収活動を毎週行っています。児童が、アルミ缶を集めて持ってくるだけではなく、チラシを作り、地域の皆さんへ回収の呼びかけをして、学校と地域が力を合わせてアルミ缶を集めています。このアルミ缶は、募金として、飯豊町にお渡しして役立ててもらっています。今年度の手ノ子小学校の卒業生は、6名。男子1名、女子は5名です。」

といった学校紹介があり、その後、①6年間の学校生活を振り返りがんばったこと、②将来の夢、③お世話になった方へありがとうのメッセージ、④来年度からチャレンジすることについてのインタビューに答えていました。

最後に、担任が、思い出エピソードやはなむけの言葉についてのインタビューに答えて取材が無事に終わりました。収録の内容は、飯豊町内の他校と合わせて後日放送されるそうです。

令和4年3月10日（木）



今年度も、児童会運営委員会が中心となり、アルミ缶回収に取り組みました。収益金は、町の福祉に役立てようと、飯豊町社会福祉協議会に寄付することになりました。そして、3月9日（水）に、飯豊町社会福祉協議会長様と総合福祉管理室長様にご来校いただき、児童会運営委員長から収益金を贈呈しました。

はじめに、運営委員から、
「今年度は、266kgのアルミ缶が集まり、
24,610円分のお金が集まりました。皆さんが、少しでも役に立ちたいという思いで参加してく

れたおかげで、昨年よりも約60kgも多く、収益金も2倍以上になりました。特に、11月に行った『アルミ缶回収強化週間』では、毎回持ってきてくれた人もいました。」

「みなさんにも、地域の方にプリントを配るのを協力していただき、手ノ子・高峰・中津川の地域みんなが集めることができました。そのおかげで、昨年度よりもかなり多くのアルミ缶が集まったのだと思います。来年度は、今年度以上にたくさん集めて、少しでも飯豊町のお役に立てるように、ご協力よろしくお願いします。」

という報告がありました。

贈呈後、飯豊町社会福祉協議会長様からは、
「今日頂いたお金は、社会福祉基金に貯金し、起こってはならないことだが、大きな地震が起きて、町民の皆さんが、着るものも、食べるものも、住む所もないといった大きな災害があった時に、有効に使わせていただきたい。」
というお話を頂きました。

来年度も、自分の活動が身近な地域や社会に役立つのだという成功体験を大事にしながら、自己有用感を育んでいきたいと思います。

令和4年3月17日(木)



おかげさまで、昨日夜中の地震の影響もなく、本日令和3年度の修了式を迎えることができました。

校長の挨拶では、学校の合言葉である【あ】あきらめない、【い】命を大切に、【う】美しい心、【え】笑顔であいさつ、【お】思いやりを通して、今年度の1年間を振り返りました。

まず、特に頑張った【い】命を大切について取り上げました。毎日の新型コロナウイルス感染症対策により、五感を制限されたとても窮屈な学校生活を強いられているにも関わらず、子どもたちは、仲間と一緒に様々な活動に前向きに取り組んできました。コロナ禍を「がってしない(へ

こたれない)」で過ごしている一人一人を、「大したもんだ」と褒め称えました。

【あ】あきらめないは、3学期特に、感染が拡大するまでの放課後クロカン練習と、感染が拡大してからの、ロイノートを活用した動画での学習参観を取り上げました。それぞれの学年で、勉強、運動等のめあてを持ち、最後までやり続けることができました。

【う】美しい心は、手ノ子・高峰・中津川の美しい自然と、そこに住む地域の方とたくさんふれ合えたことを取り上げました。

【え】笑顔であいさつは、児童会目標「あいさつで 笑顔あふれる 手ノ子小」の取組が習慣となり、登校時・下校時に、職員室・校長室で明るいあいさつをする人がたくさんいることを取り上げました。

【お】思いやりは、相手のことを考えて、優しい言葉で話したり、行動したりできるようになってきたことを取り上げました。

最後に、新聞記事の切り抜きを紹介しながら、変化が激しい、予測困難な時代が続きますが、学校教育目標にあるように、「進んで学び」「心優しく」「たくましく」生きていまいしょうと呼びかけました。

令和4年3月18日（金）



これまで、新型コロナウイルス感染症対策に注力しながら、15名の在校生と10名の教職員で、祝福の思いを込めて準備や練習に励んできました。そして、本日無事に、今年度の集大成となる卒業証書授与式を挙行し、6名の卒業生を中学校へ巣立たせることができました。

今年度の手ノ子小の卒業式にふさわしいと思わせるような、なごり雪が舞う中の卒業式となりました。そのくらい、6名の子どもたちとの別れが名残惜しいとつくづく感じる式となりました。

本校の学校教育目標である「進んで学び 心優しく たくましい 手ノ子小の子」を体現してきた6名の子どもたち。昨日の修了式後には、教職

員と在校生一人一人に、感謝の寄せ書きを贈ってくれました。5校時目には、最後の奉仕活動として、昇降口前の学校園の除雪作業をしてくださいました。本日の卒業式中の所作、マスク越しの決意発表や呼びかけの声も、中学校での活躍を期待させる立派なものでした。

式後の教室での最後の帰りの会で、担任が涙ながらに子どもたちへの感謝の気持ちを伝えていました。黒板には、「笑顔を見ると人は安心します。『ありがとう』と言われると、人は温かい気持ちになります。そんな6人と2年も過ごせて幸せでした。ずっとずっと応援しています。」というメッセージが書いてありました。お互いに、一期一会の素敵な出会いと別れを経験できたのだと、見ていて胸が熱くなりました。

卒業担任冥利に尽きる卒業式の一場面ですが、今日の巣立ちの日に向けて、多くの担任や教員の指導・支援がありました。我々教員の仕事は、1年勝負で目の前の子どもたちにどれだけ愛情を注げるか、どれだけ個々の能力を伸ばし、未来への希望を持たせてあげられるかにかかっているのだと改めて実感した場面でした。